

# 1学年における「数学的活動」

児童が数学的活動に意欲的に取り組み、知識・技能を確実に身に付け、思考力・判断力・表現力等を高め、算数に関わりをもち、学ぶことの楽しさや良さを実感することを重視する。

★印の数学的活動は、小学校学習指導要領解説算数編の1学年の目標及び内容に詳しく解説されている。

## ア 身の回りの事象を観察したり、具体物を操作したりして、数量や形を見いだす活動

・幼児期に無意識に行ってきた認識や行動を基にしながら、児童が算数の時間に登場する数量や図形と出合ったり、それらを自覚したりできるようにする。

・児童の生活経験が算数の学習につながっていくことが実感できるようにするために、具体物を操作しながら数量やものの形に関わりを持つとともに、算数に関心をもつ活動を行う。

○<★形と出会い、形を意識する>身の回りの具体物を操作したり、そこで構成された形に着目したりしながら、図形の理解の基礎になる経験を豊かにする活動。

○<身の回りの数>身の回りの具体物を数えたり等分したり、順番を調べたりし、それを整理し数で表す活動。

○<形の構成と分解>身の回りからいろいろな形を見つけたり、具体物を用いて形を作ったり分解したりする活動。

## イ 日常生活の問題を具体物などを用いて解決したり結果を確かめたりする活動

・児童に、日常生活の中に算数で解決できる課題があることに関心をもたせ、それを実際に解決したり、その結果を確かめたりする活動を体験させる。

・日常生活におけるできごとを算数と結び付けて考えたり処理したりする活動を通して、算数を学ぶよさを実感させる。

○<★長さ比べ>身の回りにある長さ、面積、体積に着目させ、日常生活に関連させて長さの比べ方を考えたり、実際に比べる体験をしたりする経験を通して、測定を用いて処理することに関心をもたせ、算数を学ぶよさを実感させる活動。

○<問題作り>生活の場面の中から算数の問題を作り、解決し、結果を確かめる活動。

○<時刻を読む>生活の中で時刻を用いたり、時刻を取り入れた話をしたりする活動。

## ウ 算数の問題を具体物などを用いて解決したり結果を確かめたりする活動

・児童が算数の問題に主体的に取り組み、既習事項を活用して考えたり判断したりすることで、解決が可能になったり、その結果を適切に表現したり処理したりすることが期待できる活動である。

・既習事項を活用すると算数の問題を解決することができることに関心をもたせ、実際に解決したりその結果を確かめたりする活動を体験させ、算数を学ぶ楽しさを実感させる。

○<★計算の仕方>具体物や図などを用いて、未習の計算の意味や計算の仕方を見つけさせる活動。

○<答えの見直し>問題を具体物などを用いて解決したり、式や答えを確かめたりする活動。

○<学習したことの活用>繰り上がりのあるたし算や繰り下がりのあるひき算は、既習の数の表し方や計算の仕方を基にできることを実感させる活動。

## エ 問題解決の過程や結果を、具体物や図などを用いて表現する活動

・具体物や図などを用いて問題解決の過程や結果を分かりやすく表す活動である。

・計算の仕方、図形の構成・分解などの形式処理(アルゴリズム)の理解は、具体物や図などを用いて可視化することが有効であり、他者との対話的な学び(コミュニケーション)を支える。

○<★グラフに表す活動>例えば咲いた朝顔の数など、資料を絵グラフに表し、結果を分かりやすく表現する活動。

○<計算の仕方の説明>たし算やひき算、順番などの計算の仕方を、具体物や図などを用いて表現し伝え合う活動。

○<図形の構成や分解>ある形の構成や分解の仕方を、三角形などを用いて表現し伝え合う活動。

# 1. なかまづくりと かず

★実施時期：4月中旬～5月上旬

★指導時間数：14時間

## 【学習指導要領】

〔A 数と計算〕

(1) 数の構成と表し方に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) もののものを対応させることによって、ものの個数を比べること。

(イ) 個数や順番を正しく数えたり表したりすること。

(ウ) 数の大小や順序を考えることによって、数の系列を作ったり、数直線上に表したりすること。

(エ) 一つの数をほかの数の和や差としてみるなど、ほかの数と関係付けてみること。

(ク) 具体物をまとめて数えたり等分したりして整理し、表すこと。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等に身に付けること。

(ア) 数のまとまりに着目し、数の大きさの比べ方や数え方を考え、それらを日常生活に生かすこと。

【内容の取扱い】特記事項なし

## 【数学的活動】

数学的活動のページを参考にして、目標と指導内容、学習活動に応じて工夫する。

## 【単元の目標】

・身の回りのものを、ものの種類や形など簡単な観点や条件によって仲間づくり(集合づくり)をしたり、2つの集合について1対1対応で数量の相等や多少を比べたりする仕方を理解すること、また、10までの数(集合数)の数え方、書き表し方や読み方、大小や系列について理解し実際にできること、10までの数の合成・分解ができる。

・ものの種類や形など簡単な観点や条件による仲間づくりの仕方などを考えて表現したり、10までの数の数え方、書き表し方や読み方、大小や系列などの仕方を考え、判断し、表現する力、10までの数の合成・分解の仕方を考え、表現する力を身に付け、生活や学習に生かしている。

・身の回りのものの種類や形、個数に関心を持ち、仲間づくりや数の多少を比べる活動を楽しみながら学ぶ態度、数え方や数の表し方、比べ方などを生活や学習に生かそうとする態度、10までの数について、一つの数をほかの数と関係付けてみることや合成・分解を生活や学習に生かす態度を養う。

## 【具体的な評価規準例】

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
なかまづくり	・簡単な観点や条件で、仲間づくりの仕方が分かり、仲間づくりができる。(知識・技能) ・1対1対応による数の相等や多少の比べ方が分かり、比べることができる。(知識・技能)	・仲間づくりの仕方を考え、判断し、説明できる。 ・ものの多少は、1対1対応で比べればよいことに気づき、数の比べ方を考え、判断し、説明できる。	・ものの集まりや数に関心を持ち、楽しみながら仲間づくりをしたり、多少を比べたりしようとしている。
いくつかな	・10までのものの個数の数え方と書き表し方、数の大きさの比べ方を理解し、実際にできる。(知識・技能) ・無としての0の意味が分かる。(知識)	・ものの数え方を知り、もの数を数え、いくつかあるか数を使って表現し、説明できる。 ・数の大きさの比べ方を考え、大小を判断し、説明できる。	・数に関心を持ち、生活や学習の中で、もの数を数えたり、数で表したり、数の大きさを比べたりしようとしている。
いくつといくつ	・10までの数について、3と2で5など数の合成、5は4と1など分解の仕方が分かる。(知識) ・10までの数を合成したり分解したりできる。(技能)	・10までの数を、合成したり分解したりして表す仕方を考え、説明できる。 ・10の合成・分解の仕方を考え、きまりを見つけ、説明できる。	・生活や学習の中で、一つの数をほかの数と関連付けて、合成したり分解したりして捉えようとしている。

## 2. なんばんめ

★実施時期:5月中旬

★指導時間数:2時間

### 【学習指導要領】

#### 【A 数と計算】

(1)数の構成と表し方に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(イ)個数や順番を正しく数えたり表したりすること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等に身に付けること。

(ア)数のまとまりに着目し、数の大きさの比べ方や数え方を考え、それらを日常生活に生かすこと。

#### 【B 図形】

(1)身の回りにあるものの形に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ウ)前後、左右、上下など方向や位置についての言葉を用いて、ものの位置を表すこと。

【内容の取扱い】特記事項なし

### 【数学的活動】

数学的活動のページを参考にして、目標と指導内容、学習活動に応じて工夫する。

### 【単元の目標】

・数と前後、左右、上下などを用いて順序や位置の表し方、集合数と順序数の意味を理解し、表すことができる。

・順序や位置の表し方、集合数や順序数の表し方を考え、表す力を身に付ける。

・順序や位置の表し方に関心をもち、生活や学習の中で生かそうとする態度を養う。

### 【具体的な評価規準例】

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
じゅんばん	・前後、左右、上下を表す言葉と数を用いて、順序や位置の表し方が分かり、実際に表すことができる。(知識・技能)	・順序や位置の表し方を考え、言葉と数で表し、説明できる。	・生活や学習の中で、前後、左右、上下を表す言葉と数を用い、順序や位置を表そうとしている。

# 3. あわせて いくつ ふえると いくつ

★実施時期:5月下旬～6月下旬

★指導時間数:8時間

## 【学習指導要領】

### 【A 数と計算】

(1)数の構成と表し方に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(エ)一つの数をほかの数の和や差としてみるなど、ほかの数と関係付けてみること。

(2)加法及び減法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア)加法及び減法の意味について理解し、それらが用いられる場合について知ること。

(イ)加法及び減法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすること。

(ウ)1位数と1位数との加法及びその逆の減法の計算が確実にできること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア)数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたり、日常生活に生かしたりすること。

【内容の取扱い】特記事項なし

## 【数学的活動】

数学的活動のページを参考にして、目標と指導内容、学習活動に応じて工夫する。

## 【単元の目標】

- ・たし算が用いられる場面(合併、増加)が理解でき、式を書いたり読んだりでき、和が10までの計算ができる。
- ・具体物や図などを用いた活動を通して、たし算の仕方を考える力を身に付け、日常生活に生かしている。
- ・たし算に関心を持ち、たし算の場面を探したり、式に表して解決したり、生活や学習に生かそうとする態度を養う。

## 【具体的な評価規準例】

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
あ わ せ て い く つ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・合併の場面のたし算の意味と式の表し方、和が10までの計算の仕方が分かる。(知識)</li> <li>・和が10までのたし算の計算ができる。(技能)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体物や図などを用いて、合わせるといくつになるか考え、式に表し、問題を解決できる。</li> <li>・合併の場面のたし算の問題作りができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・たし算の場面を探し、式に表し、結果を求めようとするとともに、生活や学習の中で使おうとしている。</li> </ul>
ふ え る と い く つ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・増加の場面のたし算の意味と式の表し方、和が10までの計算の仕方が分かる。(知識)</li> <li>・和が10までのたし算の計算ができる。(技能)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体物や図などを用いて、増えるといくつになるか考え、式に表し、問題を解決できる。</li> <li>・増加の場面のたし算の問題作りができる。</li> </ul>	
0 の た し ざ ん	<ul style="list-style-type: none"> <li>・0を含むたし算の意味、式の表し方、計算の仕方が分かる。(知識)</li> <li>・0を含むたし算の計算ができる。(技能)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図などを用いて、<math>2+3=5</math>と同じように、0を含むたし算の仕方を考え、式に表し、説明できる。</li> </ul>	

# 4. のこりは いくつ ちがいは いくつ

★実施時期:6月中旬～下旬

★指導時間数:9時間

## 【学習指導要領】

### 【A 数と計算】

(1)数の構成と表し方に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(エ)一つの数をほかの数の和や差としてみるなど、ほかの数と関係付けてみること。

(2)加法及び減法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア)加法及び減法の意味について理解し、それらが用いられる場合について知ること。

(イ)加法及び減法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすること。

(ウ)1位数と1位数との加法及びその逆の減法の計算が確実にできること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア)数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたり、日常生活に生かしたりすること。

【内容の取扱い】特記事項なし

## 【数学的活動】

数学的活動のページを参考にして、目標と指導内容、学習活動に応じて工夫する。

## 【単元の目標】

- ・ひき算が用いられる場面(求残, 求補, 求差, 比較)が理解でき, 式を書いたり読んだりでき, 10までの数のひき算ができる。
- ・具体物や図などを用いた活動を通して, ひき算の仕方を考える力を身に付け, 日常生活に生かすことができる。
- ・ひき算に関心を持ち, ひき算の場面を探したり, 式に表して解決したり, 生活や学習に生かそうとする態度を養う。

## 【具体的な評価規準例】

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
のこりはいくつ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・求残や求補の場面のひき算の意味と式の表し方, 10までの数のひき算の仕方が分かる。(知識)</li> <li>・10までの数のひき算の計算ができる。(技能)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体物や図などを用いて, 減るといくつになるか考え, 式に表し, 問題を解決できる。</li> <li>・求残や求補の場面のひき算の問題作りができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ひき算の場面を探し, 式に表し, 結果を求めようとするとともに, 生活や学習の中で使おうとしている。</li> </ul>
0のひきざん	<ul style="list-style-type: none"> <li>・0を含むひき算の意味, 式の表し方, 計算の仕方が分かる。(知識)</li> <li>・0を含むひき算の計算ができる。(技能)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図などを用いて, <math>5-2=3</math>と同じように, 0を含むひき算の仕方を考え, 式に表し, 問題を解決できる。</li> </ul>	
ちがいはいくつ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・求差の場面のひき算の意味と式の表し方, 10までの数のひき算の仕方が分かる。(知識)</li> <li>・10までの数のひき算の計算ができる。(技能)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体物や図などを用いて, いくつ多いか考え, 式に表し, 問題を解決できる。</li> <li>・求差の場面のひき算の問題作りができる。</li> </ul>	

# 5. どちらが ながい

★実施時期:7月上旬～中旬

★指導時間数:5時間

## 【学習指導要領】

【C 測定】

(1)身の回りのものの大きさに関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア)長さ、広さ、かさなどの量を、具体的な操作によって直接比べたり、他のものを用いて比べたりすること。

(イ)身の回りにあるものの大きさを単位として、その幾つ分かで大きさを比べること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア)身の回りのものの特徴に着目し、量の大きさの比べ方を見いだすこと。

【内容の取扱い】特記事項なし

## 【数学的活動】

数学的活動のページを参考にして、目標と指導内容、学習活動に応じて工夫する。

## 【単元の目標】

・具体的な操作によって、長さの意味を理解させ、直接比較や間接比較で長さを比べたり、任意の長さを基にして数値化して表したり比べたりすることができる。

・身の回りのものの特徴に目を付け、長さの比べ方を考え、見つけ出すことができる。

・身の回りの量に関心をもち、生活や学習の中で進んで比べたり、表したりしようとする態度を養う。

## 【具体的な評価規準例】

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ながさ	・長さの直接比較や間接比較による比較、任意単位による数値化の仕方と表し方が分かる。(知識) ・長さの直接比較や間接比較、任意単位による数値化と比較ができる。(技能)	・長さの比べ方(直接比較、間接比較、任意単位)を考え、説明できる。	・身の回りの長さに関心をもち、進んで長さ比べや、数で表すことに取り組もうとしている。

# 6. わかりやすく せいりしよう

★実施時期:9月上旬

★指導時間数:2時間

## 【学習指導要領】

### 【A 数と計算】

(1) 数の構成と表し方に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア)ものもとのを対応させることによって、ものの個数を比べること。

(イ)個数や順番を正しく数えたり表したりすること。

(ク)具体物をまとめて数えたり等分したりして整理し、表すこと。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等に身に付けること。

(ア)数のまとまりに着目し、数の大きさの比べ方や数え方を考え、それらを日常生活に生かすこと。

### 【D データの活用】

(1) 数量の整理に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア)ものの個数について、簡単な絵や図などに表したり、それらを読み取ったりすること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア)データの個数に着目し、身の回りの事象の特徴を捉えること。

【内容の取扱い】特記事項なし

## 【数学的活動】

数学的活動のページを参考にして、目標と指導内容、学習活動に応じて工夫する。

## 【単元の目標】

- ・身の回りのものの数を調べ、種類ごとに分類整理し、それを簡単な絵(絵グラフ)や図に表したり、読み取ったりできる。
- ・身の回りの数の大小を、絵などに整理し、どれがどれだけ多いかなど捉え、説明することができる。
- ・身の回りのものの数に関心を持ち、分類整理したり、簡単な絵や図などに表したり、気付いたことを発表したりする態度を養う。

## 【具体的な評価規準例】

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
わかりやすいせいり	・観点を決めて、仲間づくりの仕方が分かり、分類整理できる。(知識・技能) ・観点に応じて分類整理したものを簡単な絵や図で表す仕方が分かり、表すことができる。(知識・技能)	・いろいろなものの分類整理の仕方を考え、分類整理し、説明できる。 ・観点を決めて分類整理したものを簡単な絵や図で表そうと工夫することができる。	・分類整理するよさに気づき、仲間づくりをしたり、分類整理して絵や図に表したりして、どれがいくつ多いか読み取ろうとしている。
よみとり	・簡単な絵や図から読み取ることができる。(技能)	・簡単な絵や図を用いて特徴を捉えることができ、説明できる。	

# 7. 10より おおきい かず

★実施時期:9月上旬～中旬

★指導時間数:9時間

## 【学習指導要領】

### 【A 数と計算】

(1)数の構成と表し方に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア)ものともを対応させることによって、ものの個数を比べること。

(イ)個数や順番を正しく数えたり表したりすること。

(ウ)数の大小や順序を考えることによって、数の系列を作ったり、数直線の上に表したりすること。

(エ)一つの数をほかの数の和や差としてみるなど、ほかの数と関係付けてみること。

(オ)2位数の表し方について理解すること。

(キ)数を、十を単位としてみること。

(ク)具体物をまとめて数えたり等分したりして整理し、表すこと。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付ける。

(ア)数のまとまりに着目し、数の大きさの比べ方や数え方を考え、それらを日常生活に生かすこと。

(2)加法及び減法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(エ)簡単な場合について、2位数などについても加法及び減法ができることを知ること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア)数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたり、日常生活に生かしたりすること。

【内容の取扱い】特記事項なし

## 【数学的活動】

数学的活動のページを参考にして、目標と指導内容、学習活動に応じて工夫する。

## 【単元の目標】

・10より大きい数の数え方、表し方、大小、順序、系列などを理解するとともに、 $15+3$ や $18-3$ のようなたし算やひき算の仕方がわかり計算ができる。

・数のまとまりに目を付け、数え方や表し方、数の大きさの比べ方、簡単なたし算やひき算の仕方を考える力を身に付け、それらを生活や学習に生かすことができる。

・10より大きな数の数え方や簡単なたし算やひき算の仕方を進んで考え、それらを生活や学習で使おうとする態度を養う。

## 【具体的な評価規準例】

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
10より おおき いかず	・20以下の数の数え方、読み方、表し方、構成を理解する。(知識) ・10のまとまりを作り、20以下の数を数え、表すことができる。(技能) ・数を数直線上に表すことができ、順序、系列、大小、集合数と順序数の違いがわかる。(知識・技能)	・10のまとまりを作り、20以下の数の数え方を考え、10といくつで捉えるよさに気付き、表すことができる。	・身の回りのものの数を進んで数えたり、比べたり、生活や学習の中で用いようとしている。
たし ぎん と ひき ぎん	・10と1位数のたし算と、その逆のひき算の意味と計算の仕方が分かり、計算ができる。(知識・技能) ・10といくつと1位数のたし算と、その逆のひき算の意味と計算の仕方が分かり、計算ができる。(知識・理解)	・ $10+7$ や $16-6$ のようなたし算やひき算の仕方を考え、説明できる。 ・ $15+3$ や $18-3$ のようなたし算やひき算の仕方を考え、説明できる。	・ $10+7$ や $15+3$ 、 $16-6$ や $18-3$ のようなたし算やひき算を問題の解決に活用しようとしている。
20より おおき いかず	・20以上の数の数え方、読み方、表し方、構成を理解する。(知識) ・20以上の数を数えたり、表したりできる。(技能)	・10のまとまりを作り、20以上の数の数え方を考え、説明でき、20といくつで捉えるよさに気付き、表すことができる。	・身の回りのものの数を進んで数えたり、比べたり、生活や学習の中で用いようとしている。

# 8. なんじ なんじはん

★実施時期:9月中旬

★指導時間数:1時間

## 【学習指導要領】

【C 測定】

(2)時刻に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア)日常生活の中で時刻を読むこと。

イ 次のような思考力、判断力、表現等を身に付けること。

(ア)時刻の読み方を用いて、時刻と日常生活を関連付けること。

【内容の取扱い】特記事項なし

## 【数学的活動】

数学的活動のページを参考にして、目標と指導内容、学習活動に応じて工夫する。

## 【単元の目標】

- ・生活と結びつけて、時計の文字盤の仕組みを理解し、時刻(何時、何時半)を読むことができ、生活や学習の中で使うことができる。
- ・時計を用いて時刻を読む活動を通して、時刻の読み方を考え、表現する力を身に付ける。
- ・時刻に関心をもち、生活の中で、時刻を読んだり、生活と関連付けて用いたりしようとする態度を養う。

## 【具体的な評価規準例】

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
なんじ なんじはん	・文字盤の仕組みが分かり、何時、何時半の読み方が分かる。(知識) ・文字盤時計を見て、何時、何時半が読み取れる。(技能)	・文字盤時計で、何時、何時半の読み方を考え、読み、日常生活と関連付けることができる。	・時刻に関心をもち、時計を見て何時、何時半を読んだり、生活の中で使ったりしようとしている。

# 9. 3つの かずの けいさん

★実施時期:9月中旬～下旬

★指導時間数:3時間

## 【学習指導要領】

### 【A 数と計算】

(1)数の構成と表し方に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(エ)一つの数をほかの数の和や差としてみるなど、ほかの数と関係付けてみること。

(2)加法及び減法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア)加法及び減法の意味について理解し、それらが用いられる場合について知ること。

(イ)加法及び減法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすること。

(ウ)数の大小や順序を考えることによって、数の系列を作ったり、数直線の上に表したりすること。

(エ)一つの数をほかの数の和や差としてみるなど、ほかの数と関係付けてみること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア)数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたり、日常生活に生かしたりすること。

【内容の取扱い】特記事項なし

## 【数学的活動】

数学的活動のページを参考にして、目標と指導内容、学習活動に応じて工夫する。

## 【単元の目標】

・3口の数のたし算やひき算の意味と式について理解し、その計算の仕方を理解し、計算ができるとともに、1つの式に表すことができるようにする。

・3口のたし算とひき算の計算の意味や仕方を考える力を身に付け、問題解決に生かすことができる。

・続いて増減する場面に関心をもち、3口の数のたし算やひき算と捉え、生活や学習に生かそうとする態度を養う。

## 【具体的な評価規準例】

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
3 つ の か ず の け い さ ん	・3口のたし算の式の意味と計算の仕方を理解し、計算できる。(知識・技能) ・3口のひき算の式の意味と計算の仕方を理解し、計算できる。(知識・技能) ・3口のたし算とひき算の混合の式の表し方を理解し、計算できる。(知識・技能)	・3口のたし算やひき算の場面の式の表し方や計算の仕方を考え、説明できる。	・続いて増える場面や減る場面をたし算やひき算と捉え、1つの式に表そうとしている。

# 10. どちらが おおい

★実施時期:9月下旬

★指導時間数:4時間

## 【学習指導要領】

【C 測定】

(1)身の回りのものの大きさに関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア)長さ、広さ、かさなどの量を、具体的な操作によって直接比べたり、他のものを用いて比べたりすること。

(イ)身の回りにあるものの大きさを単位として、その幾つ分かで大きさを比べること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア)身の回りのものの特徴に着目し、量の大きさの比べ方を見いだすこと。

【内容の取扱い】特記事項なし

## 【数学的活動】

数学的活動のページを参考にして、目標と指導内容、学習活動に応じて工夫する。

## 【単元の目標】

・具体的な操作によって、かさの意味を理解させ、直接比較や間接比較で大きさを比べたり、任意の大きさを基にして数値化して表したり比べたりすることができる。

・身の回りのものの特徴に目を付け、かさの比べ方を考え、見つけ出すことができる。

・身の回りの量に関心をもち、生活や学習の中で進んで比べたり、表したりしようとする態度を養う。

## 【具体的な評価規準例】

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
かさ	・かさの直接比較や間接比較による比較、任意単位による数値化の仕方と表し方が分かる。(知識) ・かさの直接比較や間接比較、任意単位による数値化と比較ができる。(技能)	・かさの比べ方(直接比較、間接比較、任意単位)を考え、説明できる。	・身の回りのかさに関心をもち、進んでかさ比べや、数で表すことに取り組もうとしている。

# 11. たしざん

★実施時期:10月上旬～中旬

★指導時間数:10時間

## 【学習指導要領】

### 【A 数と計算】

(1)数の構成と表し方に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(エ)一つの数をほかの数の和や差としてみるなど、ほかの数と関係付けてみること。

(2)加法及び減法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア)加法及び減法の意味について理解し、それらが用いられる場合について知ること。

(イ)加法及び減法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすること。

(ウ)1位数と1位数との加法及びその逆の減法の計算が確実にできること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア)数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたり、日常生活に生かしたりすること。

【内容の取扱い】特記事項なし

## 【数学的活動】

数学的活動のページを参考にして、目標と指導内容、学習活動に応じて工夫する。

## 【単元の目標】

・1位数+1位数で繰り上がりのあるたし算の仕方を理解し、確実に計算ができるようにする。

・1位数+1位数で繰り上がりのあるたし算の仕方を、既習事項を活用して考える力を身に付け、問題解決に活用できる。

・既習事項を活用して、1位数+1位数で繰り上がりのあるたし算の計算の仕方を考えようとする態度を養う。

## 【具体的な評価規準例】

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
たしざん	・9+3や7+9のような1位数+1位数の繰り上がりのあるたし算の計算の仕方が分かる。(知識) ・1位数+1位数の繰り上がりのあるたし算の計算ができる。(技能)	・9+3や7+9のような繰り上がりのあるたし算の仕方を既習事項を用いて考え、説明できる。 ・7+8のような繰り上がりのあるたし算の式に合う問題作りができる。	・繰り上がりのあるたし算の計算の仕方を、既習事項を活用して考えようとしている。
けいさんれんしゅう	・1位数+1位数の繰り上がりのあるたし算の計算が確実にできる。(技能)	・たし算カードを順序よく並べ、答えが同じになるカードやきまりを見つけることができる。	

# 12. かたちあそび

★実施時期:10月下旬

★指導時間数:4時間

## 【学習指導要領】

【B 図形】

(1)身の回りにあるものの形に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア)ものの形を認め、形の特徴を知ること。

(イ)具体物を用いて形を作ったり分解したりすること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア)ものの形に着目し、身の回りにあるものの特徴を捉えたり、具体的な操作を通して形の構成について考えたりすること。

【内容の取扱い】特記事項なし

## 【数学的活動】

数学的活動のページを参考にして、目標と指導内容、学習活動に応じて工夫する。

## 【単元の目標】

- ・身の回りの具体物を観察し、それらを使って形づくりをする活動を通して、立体図形の特徴や機能を理解するとともに、それらの形の特徴を捉えて分類したり、具体物の面の形の特徴を捉えて形を写し取ったりすることができる。
- ・ものの形に目を付けて特徴を調べたり、具体的な操作を通して形の構成を考えたりする力を身に付ける。
- ・身の回りのものの形に関心をもち、具体的な操作を通して特徴を調べたり、説明したりしようとする態度を養う。

## 【具体的な評価規準例】

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
かたちづくり	・身の回りの立体図形の特徴や機能が分かる。(知識) ・身の回りの立体図形の機能を使って造形遊びができる。(技能)	・ものの形の特徴を捉え、それを使って形づくりの仕方を考え、説明できる。	・身の回りのものの形に関心をもち、形の特徴を捉えたり、仲間づくりや形づくりをしたりしようとしている。
なかまわけ	・身の回りの立体図形の形の特徴を捉え、仲間わけができる。(知識・技能)	・身の回りのものの形の特徴で仲間わけの仕方を考え、説明できる。	
かたち	・箱の面から形を写し取ったり、それを使って絵をかくたり、元の箱を指摘したりできる。(技能)	・いろいろな箱の面からどのような形が取り出せるか調べ、説明できる。	

# 13. ひきざん

★実施時期:11月上旬～下旬

★指導時間数:10時間

## 【学習指導要領】

### 【A 数と計算】

(1)数の構成と表し方に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(エ)一つの数をほかの数の和や差としてみるなど、ほかの数と関係付けてみること。

(2)加法及び減法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア)加法及び減法の意味について理解し、それらが用いられる場合について知ること。

(イ)加法及び減法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすること。

(ウ)1位数と1位数との加法及びその逆の減法の計算が確実にできること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア)数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたり、日常生活に生かしたりすること。

【内容の取扱い】特記事項なし

## 【数学的活動】

数学的活動のページを参考にして、目標と指導内容、学習活動に応じて工夫する。

## 【単元の目標】

・2位数－1位数で繰り下がりのあるひき算の仕方を理解し、確実に計算ができるようにする。

・2数－1位数で繰り下がりのあるひき算の仕方を、既習事項を活用して考える力を身に付け、問題解決に活用できる。

・既習事項を活用して、2位数－1位数で繰り下がりのあるひき算の計算の仕方を考えようとする態度を養う。

## 【具体的な評価規準例】

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ひきざん	・12-9や12-3のような2位数－1位数の繰り下がりのあるひき算の計算の仕方が分かる。(知識) ・2位数－1位数の繰り下がりのあるひき算の計算ができる。(技能)	・12-9や12-3のような繰り下がりのあるひき算の仕方を考え、説明できる。 ・12-9のような繰り下がりのあるひき算の式に合う問題作りができる。	・既習事項を活用して、繰り下がりのあるひき算の計算の仕方を考えようとしている。
けいさんれんしゅう	・2位数－1位数の繰り下がりのあるひき算の計算が確実にできる。(技能)	・ひき算カードを順序よく並べ、答えが同じになるカードやきまりを見つけることができる。	

# 14. おおきいかず

★実施時期：1月上旬～下旬

★指導時間数：14時間

## 【学習指導要領】

### 【A 数と計算】

(1)数の構成と表し方に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア)ものもとのを対応させることによって、ものの個数を比べること。

(イ)個数や順番を正しく数えたり表したりすること。

(ウ)数の大小や順序を考えることによって、数の系列を作ったり、数直線の上に表したりすること。

(エ)一つの数をほかの数の和や差としてみるなど、ほかの数と関係付けてみること。

(オ)2位数の表し方について理解すること。

(カ)簡単な場合について、3位数の表し方を知ること。

(キ)数を、十を単位としてみること。

(ク)具体物をまとめて数えたり等分したりして整理し、表すこと。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア)数のまとまりに着目し、数の大きさの比べ方や数え方を考え、それらを日常生活に生かすこと。

(2)加法及び減法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(エ)簡単な場合について、2位数などについても加法及び減法ができることを知ること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア)数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたり、日常生活に生かしたりすること。

【内容の取扱い】特記事項なし

## 【数学的活動】

数学的活動のページを参考にして、目標と指導内容、学習活動に応じて工夫する。

## 【単元の目標】

・100までの数や簡単な3位数の数え方、読み方、書き方、大小や順序、位取りについて理解でき、数直線上に表したり読んだり、簡単な場合のたし算やひき算の仕方が分かり計算できる。

・具体物や図などを用いた活動を通して、数の数え方や計算の仕方を考える力を身に付ける。

・大きな数に関心をもち、既習事項を基に数えたり表したり計算したりし、生活の中で活用してする態度を養う。

## 【具体的な評価規準例】

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
おおきいかず	<ul style="list-style-type: none"> <li>・100までの数の数え方、位取り、読み方や書き方、大小などが分かる。(知識)</li> <li>・100までの数を数えたり、書いたり大小を比べたりできる。(技能)</li> <li>・数直線の上に数を表すことや読むことが分かり、実際にできる。(知識・技能)</li> <li>・数表を観察してきまりを見つけることができる。(技能)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10を基にして、100までの数の数え方や表し方、比べ方を考え、説明できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身の回りの数に関心をもち、既習事項を活用して、進んで数え方や書き表し方を考えようとしている。</li> </ul>
100よりおおきいかず	<ul style="list-style-type: none"> <li>・120程度までの数の数え方、表し方が分かり、実際に数えたり表したりできる。(知識・技能)</li> <li>・数直線の上に数を表したり、読み取ったり、数表を観察してきまりを見つけたりできる。(技能)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・120程度までの数の数え方や表し方を考え、説明できる。</li> </ul>	
たしざんとひきざん	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<math>30+4</math>、<math>34-4</math>などのたし算とひき算の仕方が分かり、計算できる。(知識・技能)</li> <li>・<math>25+3</math>、<math>28-3</math>などのたし算とひき算の仕方が分かり、計算できる。(知識・技能)</li> <li>・何十のたし算とその逆のひき算の仕方が分かり、計算ができる。(知識・技能)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10や位取りを基にして、たし算やひき算の仕方を考え、説明できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10や位取りを基にして、たし算やひき算の仕方を考えようとしている。</li> </ul>

# 15. どちらが ひろい

★実施時期:1月下旬

★指導時間数:1時間

## 【学習指導要領】

【C 測定】

(1)身の回りのものの大きさに関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア)長さ、広さ、かさなどの量を、具体的な操作によって直接比べたり、他のものを用いて比べたりすること。

(イ)身の回りにあるものの大きさを単位として、その幾つ分かで大きさを比べること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア)身の回りのものの特徴に着目し、量の大きさの比べ方を見いだすこと。

【内容の取扱い】特記事項なし

## 【数学的活動】

数学的活動のページを参考にして、目標と指導内容、学習活動に応じて工夫する。

## 【単元の目標】

・具体的な操作によって、広さの意味を理解させ、直接比較で大きさを比べたり、任意の大きさを基にして数値化して表したり比べたりすることができる。

・身の回りのものの特徴に目を付け、広さの比べ方を考え、見つけ出すことができる。

・身の回りの量に関心を持ち、生活や学習の中で進んで比べたり、表したりしようとする態度を養う。

## 【具体的な評価規準例】

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ひろさ	・広さの直接比較による比較の仕方、任意単位による数値化の仕方と表し方、比較の仕方が分かる。(知識) ・広さの直接比較、任意単位による比較ができる。(技能)	・広さの比べ方(直接比較、任意単位)を考え、説明できる。	・身の回りの広さに関心を持ち、進んで広さ比べや、数で表すことに取り組もうとしている。

# 16. なんじなんぷん

★実施時期:2月上旬

★指導時間数:2時間

## 【学習指導要領】

【C 測定】  
(2)時刻に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。  
ア 次のような知識及び技能を身に付けること。  
(ア)日常生活の中で時刻を読むこと。  
イ 次のような思考力、判断力、表現等を身に付けること。  
(ア)時刻の読み方を用いて、時刻と日常生活を関連付けること。  
【内容の取扱い】特記事項なし

## 【数学的活動】

数学的活動のページを参考にして、目標と指導内容、学習活動に応じて工夫する。

## 【単元の目標】

- 生活と結びつけて、時計で時刻(何時何分など)を読むことができ、生活や学習の中で使うことができる。
- 時計を用いて時刻を読む活動を通して、時刻の読み方を考え、表現する力を身に付ける。
- 時刻に関心をもち、生活の中で、時刻を読んだり、生活と関連付けて用いたりしようとする態度を養う。

## 【具体的な評価規準例】

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
なんじ なん ぷん	・文字盤時計の仕組みと目盛の読み方が分かる。(知識) ・文字盤時計を見て、何時何分が読み取れる。(技能)	・文字盤時計で、何時何分の読み方を考え、読み、日常生活と関連付けることができる。	・時刻に関心をもち、時計を見て何時何分を読んだり、生活の中で使ったりしようとしている。

# 17. たしざんと ひきざん

★実施時期:2月中旬

★指導時間数:5時間

## 【学習指導要領】

### 【A 数と計算】

(2) 加法及び減法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 加法及び減法の意味について理解し、それらが用いられる場合について知ること。

(イ) 加法及び減法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付ける。

(ア) 数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたり、日常生活に生かしたりすること。

【内容の取扱い】特記事項なし

## 【数学的活動】

数学的活動のページを参考にして、目標と指導内容、学習活動に応じて工夫する。

## 【単元の目標】

・位置の表し方を理解し、番号や順序を表す順序数に関わるたし算やひき算の問題が解決できるようにするとともに、2量の違いに着目してたし算やひき算の問題が解決できるようにする。

・順番の問題、違いを求める問題の解決の仕方を、図にかいて考える力を身に付ける。

・図にかいて解決の仕方を考えたり、生活や学習の中で活用したりする態度を養う。

## 【具体的な評価規準例】

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
たしざんとひきざん	・順番の問題を図にかいて、たし算やひき算の式に表す仕方が分かる。(知識) ・順番の問題を図にかいて、たし算やひき算の式に表し、解決できる。(技能) ・異種の量を含めたたし算やひき算の意味と式の表し方が分かる。(知識)	・順番の問題を図にかいて、たし算になるかひき算になるか考え、判断し、説明できる。	・順番の問題を図にかいて、たし算になるかひき算になるか考え、生活の中で活用しようとしている。
おおいすくない	・求大や求小の問題を図にかいて、たし算やひき算の式に表す仕方が分かる。(知識) ・求大や求小の問題を図にかいて、たし算やひき算の式に表し、解決できる。(技能)	・求大や求小の問題を図にかいて、たし算になるかひき算になるか考え、判断し、説明できる。	・求大や求小の問題を図にかいて、たし算になるかひき算になるか考え、生活の中で活用しようとしている。

# 18. かたちづくり

★実施時期:3月上旬

★指導時間数:5時間

## 【学習指導要領】

【B 図形】

(1)身の回りにあるものの形に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に着けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付ける。

(ア)ものの形を認め、形の特徴を知ること。

(イ)具体物を用いて形を作ったり分解したりすること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア)ものの形に着目し、身の回りにあるものの特徴を捉えたり、具体的な操作を通して形の構成について考えたりすること。

【内容の取扱い】特記事項なし

## 【数学的活動】

数学的活動のページを参考にして、目標と指導内容、学習活動に応じて工夫する。

## 【単元の目標】

- ・身の回りのものを概形で捉え、三角の色板を組み合わせて作ったり、その活動を通して基本的な操作(ずらす、回す、裏返す)ができるようにするとともに、数え棒で形を作ったり、点を線でつないで形を作ったりできる。
- ・ものの形に目を付けて特徴を調べたり、具体的な操作を通して作ったり、操作したりして形の構成について考えたりする力を身に付ける。
- ・身の回りのものの形を観察したり、作ったり、図形を移動して調べたり、説明したりしようとする態度を養う。

## 【具体的な評価規準例】

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
いろいろなならべ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身の回りの物を概形で捉え、三角の色板を使って構成する仕方が分かり、構成できる。(知識・技能)</li> <li>・基本的操作「ずらす、回す、裏返す」の意味が分かり、実際にできる。(知識・技能)</li> <li>・色板を使った形づくりの仕方が分かり、構成・分解できる。(知識・技能)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な操作を通して、身の回りのものを概形で捉え、三角の色板を用いた構成の仕方を考え、説明できる。</li> <li>・基本操作をして、形の変化や作り方を考え、行い、どう動かしたか説明できる。</li> <li>・三角の色板を使って、いろいろな形の作り方を考え、説明できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身の回りのものを概形で捉え、形を見つけたり、三角の色板を使って構成したり、基本操作に関心をもって形を変えたり作ったりしようとしている。</li> </ul>
かたちづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数え棒を使った形の作り方が分かり、三角や四角などを作ることができる。(知識・技能)</li> <li>・点を線でつないだ三角や四角のかき方が分かり、かくことができる。(知識・技能)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数え棒を使った形の作り方を考え、作り、説明できる。</li> <li>・点を線でつないだ三角や四角のかき方を考え、説明できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・形を作ることに関心をもち、いろいろな三角や四角を作ったり、点を線でつないでかいたりしようとしている。</li> </ul>